

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和元年九月度 入選句 (投稿総数二千三百二十二句・小中学投句数千六百十三句)

特選

かくれんぼすすきの間をかけめぐる 大垣市 大関 勇斗(小五)

すすきの原っぱで、作者は友だちとかくれんぼをしたのですね、高さ一〜三メートルも伸びたすすきの原っぱを、鬼さんに見つかからないように、あちこちかけ回ったというのです。楽しくもスリルのある遊びに興じている作者の様子が想像される一句です。「すすきの間(あいだ)を駆けめぐる」が、いいですね。町なかでは体験できない遊びをしましたね。

猫じやらし風といっしょにおどってる 大垣市 河本 琉璃(小六)

「風といっしょにおどってる」が、いいですね。猫じやらしは、秋の季語で、えのころ草ともいいます。草の穂が子犬の尾に似ているところからこの名があるといえます。堤防や田んぼ、道端で、子犬がしっぽを振っているように、ねじやらしがおどっている愛らしい姿が浮かんでくる観察の効いた一句です。

エラーして見上げる空にいわしぐも 大垣市 まぶち けいこ(小五)

いわし雲は、秋の季語で、五千〜一万三千メートルもの高空に、まだらな雲が連なっている様子が、いわしの群れに似ているところからこの名がつけられたといえます。作者は、エラーをして仲間にすまない気持ちと孤独感にとらわれていたのでしょうか。そんな時、空を見上げると、いわし雲が空高くたなびいているのを見て、ほっとしたのでしょうか。そんな作者の心の動きが想像できる一句です。

秀逸

夏の川小さくゆれるやかたぶね 大垣市 高橋 夢月(小六)

ぎんなんのにおいが手からはなれない 大垣市 田中 枇呂(小二)

川沿いを真っ赤にそめるひがん花 大垣市 折戸 颯良(小六)

目の前に空いっぱいのいわし雲 大垣市 神原 心音(小五)

ヒマワリがたねをのこしてしぼんでる 大垣市 坪内 美月(小三)

ながればしてとてをかさねねがいごと 大垣市 高橋 有為子(小三)

どんぐりがころころさかをはしってく 大垣市 日比 かりん(小三)

夕日にねトンボの羽がひかっている 大垣市 篠田 風樹(小五)

奈良公園子鹿と共に親座る 大垣市 長瀬 優奈(小六)

秋刀魚焼くにおいただよう家の中 大垣市 國嶋 小春(小六)

入選

こい麦茶一口のめば母の味 大垣市 片出 朱律(小六)

太陽であせがキラリと光ってる 大垣市 各務 杏(小六)

ベランダでゆれる風りん歌ってる 大垣市 玉井 優風(小六)

ばあちゃんのつくったすいかはさいこうだ 大垣市 佐竹 詠宇(小二)

いなびかり光ると耳をふさいでる 大垣市 のむら ひでひさ(小二)

ひやけあとおもいでいっぱいなつやすみ 大垣市 古川 颯人(小二)

帰り道秋風浴びてかみなびく 大垣市 聚岳 美結(小六)

水まきで小さなにじがうまれたよ 大垣市 多賀 史奈(小三)

風りんがとなりの家から聞こえるよ 大垣市 多湖 悠之介(小三)

かえるさんよるもねないで大合しよう 大垣市 鹿野 由衣(小三)

入選

じいちゃんち今年もいくよ夏まつり 大垣市 桐山 真維(小三)

にわさきにへチマのおばなはなざかり 大垣市 かわむら るか(小四)

ひがんばなまつかな夕日と同じ色 大垣市 市川 莉緒(小五)

どんぐりが上からコツンと落ちてきた 大垣市 村若 朋輝(小五)

なつのうみきらきらひかるほうせきだ 大垣市 日高 由希菜(小三)

コスモスがいろんないろでならんでる 大垣市 遠どう み夢(小三)

すすきさんかぜといっしょにうたってる 大垣市 三輪 有希(小三)

夕立の去った空には光るにじ 大垣市 宮部 凜成(小四)

宿題にひたすらおわれる夏休み 大垣市 安本 心(小六)

草むらで虫がかなでる音楽だ 大垣市 木村 勁結(小六)

選者吟

日が匂ひ稲穂が匂ひ輪中村

幹 郎